

「物流企業が資金調達を変える」



I部 第三席
はるか晴香さん
(日立物流)

現在、世界では、政治・経済をはじめ様々な分野でグローバル化が、加速的に進展している。人間が作り上げた技術やシステムにより、ヒト、モノ、力などが国を超えて一層流動する時代を迎える中、各国は協力し、平和と発展を追求することによって、これまでの慣習から脱却して、新たな成長が不可欠となっている。

そのため、国際化や「コス

トダウ」という言葉が使われるようになって久しい。

しかし現在は

2013年に1072社

希望する外国人につ

足」とだけ結論付けられ

た。それは日本で就職を

力でいくこと

が、この資金調達手法が十分浸透したとは言い難いのは、管理モニタリングの面で課題があるからである。金融機関がA/B

しを実施する意向がない

理由について、「社内に

実施上の課題につい

ては、資金が必要であ

る。資金を調達するに

は、株や社債、金融機関

からの借入れなどの方法

があるが、中小企業の場

合は信用力の問題から市

場や売掛債権の問題点を

克服した新たな金銭債権

である「電子記録債権」

を学ぶ機会を得た。そし

て物流企業で勤務を

形や売掛債権の問題点を

克服した新たな金銭債権

である「電子記録債権」

を始めた。今後、日本

の技術を習得するため

がある。拳けのことで

ある。拳けのことで

ある。拳けのことで